



糸魚川市立磯部小学校

所在地 糸魚川市大字筒石 500

校長 西條 敏一

教頭 加藤 一穂

☎ 025(567)2200 Fax 025(567)2902

Email isobesho@itoigawa.ed.jp

30年度学級編成

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級	1		1		1	1	0	4
男子	3	3	4	0	4	3	0	17
女子	4	2	7	5	7	4	0	29
計	7	5	11	5	11	7	0	46

1 学校の概観

(1) 学校の沿革

- S44 磯部地区 6 か校が統合（筒石、徳合、仙納、藤崎、大洞、百川）
- S45 実質統合により、校舎新築・落成
- S63 高速北陸道のトンネル工事に伴う土砂により、グラウンドを整備
- H6 筒石漁協の協力による地引網体験活動の開始
- H23 旧磯部中学校体育館を本校体育館として使用開始
- H25 校舎改築工事により新校舎完成体育館改修工事完了

(2) 教育課題

言語活動の充実による、思考力・判断力・表現力の育成
 学級づくりや人間関係づくりの充実により、互いを認め合い尊重する心や態度の育成
 家庭や地域と連携・協力した安全教育・防災教育・特別支援教育の推進
 課題解決に向けた児童一人ひとりの生活習慣の改善や体力向上への支援
 自ら、課題や問題の解決に取り組む主体性を育む

2 本年度の教育課程

(1) 教育目標

「学び続ける子 互いに認め合う子
 健やかに育つ子」

(2) 重点目標

学び合い、考えを深める子どもの育成
 お互いのよさを認め合える子どもの育成
 いのちを大切に作る子どもの育成

(3) 重点目標達成のための方策

2つのプロジェクト「学びプロジェクト」
 「心・体プロジェクト」に全教員が所属し、重点目標の実現に向けて、具体的な取組事項と評価項目を協議・検討し、共通認識に基づいた実践を推進する。

【確かな学びに向けた方策】

児童一人ひとりの学びを確実にみとり、個に応じた指導・支援を行う。
 対話や話し合い活動を通して、互いに考えを深め合える授業の展開に努める。

生活科や総合などで、進んで地域とかかわり、地域に学ぶ学習を充実させる。

家庭、地域と連携し、望ましい学習習慣を身に付ける。

【豊かな心に向けた方策】

「楽しい学校」を目指し、行事等で児童が自主的に計画・運営に携わり、取組後の振り返りの充実により自己有用感を高める。

生活目標の達成に向け、児童一人ひとりが考えることにより、自分や他の人を思いやる気持ちを育てる。

児童主体の「あいさつ運動」により、友達の輪を広げ、お互いの仲間意識を高める。

【健やかな体に向けた方策】

中学校区の取組との連携を進めることで、生活を見直し、主体的に健康づくりができる態度を育てる。

学校保健委員会の機能を生かし、健康の問題解決に向けて、保護者・地域の方・学校医と連携・協力して、メディア時間の改善を図る。

体育の授業や行事では、児童に目標をもたせ、個別指導を充実させながら、最後まであきらめずに目標に向かって努力する態度を育てる。

3 学習指導の大綱

(1) 教科指導

自ら学び、自ら表現し、考えを深め合おうとする意欲を高め、基礎・基本の定着とともに、思考力・判断力・表現力を育てる。

(2) 道徳の時間

全ての教育活動における様々な体験活動と関連させながら、自分事として考えることができる教材や資料を提示し、生命の尊重・人権の尊重・思いやりの心の育成に努め、自己有用感を高める。

(3) 外国語活動

外国の言語や文化への興味・関心を高めるとともに、異文化への理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

(4) 総合的な学習の時間

主体的に人・もの・ことと関わり、自ら課題をもち、探究的・協同的に解決しながら、進んで自分の思いや願いなどを表現する力を育てる。

課題を見付け、主体的に解決していく力を育てる。

(5) 特別活動

児童一人ひとりが自分の考えをもって参加し、力を合わせ、進んで活動しようとする態度を育てる。

4 生徒指導の大綱

(1) 指導の重点

自他のよいところに気付き、互いに認め合う子の育成

社会性を身に付け、望ましい人間関係を結ぶ子の育成

不登校やいじめのない学校づくりの推進

(2) 具体的な実践の方策(抜粋)

助け合い、励まし合う温かい学級集団の育成に努める。

年度当初に全職員で「いそべっ子みんなのやくそく」について見直しを行い、共通理解を図る。

毎週、月曜日の打ち合わせで児童についての情報交換をする。

毎月、心のアンケートを実施後、教育相談を行い、いじめや児童の悩みや困り感など児童の実態に寄り添い指導にあたる。

5 校内研究の概要

(1) 研究主題

「自ら学び、表現し、考えを深める子の育成」
～聞いて考え、伝え合う学習活動をめざして～

(2) 研究の内容

聞いたことに対して自分の考えを述べ、対話や話し合い活動が深まる課題設定や指導の在り方
複式授業で指示待ち、支援待ちにならず、主体的に学習活動に関わる学習課題や支援の在り方

「特別な教科道徳」が始まるのを受け、道徳の授業方法(課題提示・授業形態等)や評価方法

6 重要な教育活動

(1) ジオパーク学習

主に総合的な学習の時間で、中学校区での共通取組事項でもあるキャリア教育と関連づけて、地域素材や地域講師を活用し、児童がふるさとへの誇りと愛着をもつことができるようにする。

低学年...野菜の栽培について地域の方から学ぶことを通して磯部地区について知り関心をもつ。
中学年...磯部地区の自然やそこに暮らす人々の暮らしを学ぶことにより、地域のよいところに気付き、地域を好きになる。

高学年...地域の産業(農業、漁業、観光)について自然環境や人材から学ぶことを通して、現

在、そして未来の磯部地区について考え、発信する。

(2) キャリア教育

ふるさとへの愛着をもち、自分のよさや特性に気付き、将来への夢や希望をもち、その実現に向けて主体的に学び続ける児童を育成する。

低学年...係や当番の仕事を友だちと協力して最後までやる。

中学年...社会科や総合的な学習の時間での地域探検や職業体験の実施。

高学年...地域の産業について調べたことを地域のPR活動につなげる。

(3) 特別支援教育

特別な教育的支援を必要とする児童について全職員で状況と対応策を情報共有し、集団の中で個の身長を図る。また、保護者と困り感を共有し、合意形成の元、個に合わせた教育を推進する。

(4) 陰山メソッド

朝学習では、全学年で音読に取り組み、大きな声を出せるように継続する。

国語の導入で60ます漢字、算数の導入で100ます計算に取り組み、集中力を高める。児童が、個々に記録を蓄積し、成果を実感できるようにする。

放課後いそべ塾では、開講時間の冒頭に毎回ます計算を行う。

7 教職員の構成

校長 1 教頭 1 教諭 4 養護教諭 1
事務主事 1 教育補助員 1 管理員 1

8 学校運営協議会

【委員の構成】 15名

地区自治協議会長、町内会長

民生委員・児童委員代表、学識経験者

P T A、地域支援コーディネーター他

【C Sとしての課題】

少子化、高齢化する地域を活性化する事業の取組

学校の課題と地域の課題を明確にししながら、実現可能な教育活動の展開

地域人材、地域資源を有効活用したカリキュラムマネジメント





糸魚川市立能生小学校

所在地 糸魚川市能生 4485 番地

校長 猪又 英一

教頭 飯田 美輝夫

025(566)2026

fax025(566)3159

Email noushou@itoigawa.ed.jp

30 年度学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級	1	1	1	1	1	1	2	8
男子	11	16	18	13	9	8	7	82
女子	11	11	14	17	12	12	2	79
計	22	27	32	30	21	20	9	161

1 学校の概観

(1) 学校の沿革

M 7 第 5 中学区公立第 16 番能生小学校創立

S 22 能生町立能生小学校と改称

H 13 P T A と「新潟緑の百年物語」植樹実施

H 15 校舎耐震大改装を実施

H 17 市町合併 糸魚川市立能生小学校と改称

H 26 学校創立 140 周年記念事業を実施

H 27・28

文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」委託研究を実施

(2) 教育課題

確かな学力の向上

主体性の向上

道徳的実践力の育成

不登校、不登校傾向児童の解消

2 本年度の教育課程

(1) 教育目標

「よく学び 心豊かに たくましく」

(2) 重点目標

互いに認め合い、高め合う子ども

(3) 重点目標達成のための方策

確かな学力と学習意欲の向上を図る。

豊かな心と好ましい人間関係の育成を図る。

たくましい体の育成と生活習慣の定着を図る。

3 学習指導の大綱

(1) 教科指導

日常の授業改善に努めるとともに、学習課題の

提示と振り返りによる学習の意識化（自覚化）を進め、基礎・基本の確実な定着を図る。

(2) 道徳の時間

相手の立場を考えて仲良く助け合い、温かい言葉で励まし合おうとする心と、自らの判断で行動できる態度を育てる。

(3) 外国語活動

対話を重視し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

(4) 総合的な学習の時間

人、もの、ことに興味や関心をもってかわり、自分なりの課題を見付け、伝え合いを通して考えを深める力を育てる。

(5) 特別活動

様々な人とかわり、望ましい人間関係を築く力を育てる。

4 生徒指導の大綱

(1) 指導の重点

相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを伝えたりして、よりよい集団生活を送ろうとする力を育てる。

(2) 具体的な実践の方策（抜粋）

日々の学習指導の中での生徒指導的な配慮を大切に、積極的な学習展開ができるようにする。

子ども同士の心の触れ合いを深め、共感的な人間関係づくりを大切にした集団作りをする。一人ひとりが学校・学級への所属感や連帯感をもち、自己肯定感を高める。

めあてに向かった取組、相手のことを考えた接し方や心身の健康を振り返る機会を意図的にもち、学校生活への適切な意欲付けを行う。基本的な生活習慣・節度ある生活の定着を図る。保護者との連絡を密にするとともに、方針の共通理解のもと、職員が一体となって粘り強い指導を行う。

5 校内研究の概要

(1) 研究主題

「自らの判断により、進んで道徳的实践ができる子どもの育成(4年次) - 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習の工夫 - 」

(2) 研究の内容

道徳性を育む教育活動の見直しと道徳授業との関連付け

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習の工夫

家庭・地域との連携による一貫した道徳教育の充実

6 重要な教育活動

(1) ジオパーク学習

総合的な学習の時間等に、地域素材や地域講師を活用した学習を行う。ふるさとへの誇りと愛着をもつことができるようにする。

3年生...ジオパーク巡り(神道山、白山神社、マリンドリーム、弁天岩)

4年生...能生川

5年生...能生漁港

(2) キャリア教育

人とかわりながら活動し、自己のよさを生かして、進んで人の役に立とうとする子どもを育てる。自分にあつためあてをやり遂げる子どもを育てる。

低学年...あいさつ運動、係活動の実施

中学年...社会科見学、町探検での職業理解

高学年...フウセンカズラ見守り隊でのお年寄り訪問支援、委員会活動

(3) 特別支援教育

学校体制で取り組む特別支援教育の推進

・校内委員会を中心とする校内支援体制の工夫・改善に努める。

・「交流及び共同学習」を継続的に実施する。

関係機関との連携による一環した支援

・糸魚川市相談支援ファイルを活用する。

・SC、SSW、生活指導支援員、家庭児童相談員等と連携して保護者、児童援助にあたる。

(4) 篠山メソッド

実施の概要

H30年度より校時表を変更し、朝8:15~8:25を『学力向上タイム』として、全学年漢字・百ます計算・音読に取り組む。集中力や発表力を伸ばす全校体制での取組としている。

7 教職員の構成

校長 1 教頭 1 教諭 10(産休・育休1名含む) 講師 1

養護教諭 1 事務主任 1 栄養主査 1

教育補助員 3 司書 1 管理員 1

8 学校評議員等

【委員の構成】5名

町内会連合会長、糸魚川市人権擁護委員、小泊地区長、能生保育園長、元PTA

【その他支援団体等】

地域後援会 民生児童委員 学区町内会

元気印の会 能生地区まちづくり推進協議

各企業



糸魚川市立南能生小学校

所在地 糸魚川市溝尾 2991-4

校長 金子 浩子

教頭 米山 一寿

025(568)2011

fax025(561)5015

E-mail minaminou@itoigawa.ed.jp

30年度学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級	1	1	1	1	1	1	0	3
男子	1	1	5	1	2	4	0	14
女子	2	2	3	3	2	6	0	18
計	3	3	8	4	4	10	0	32

1 学校の概観

(1) 学校の沿革

S37 川内小学校統合

S59 現校舎完成

S63 上能生小学校・高倉小学校統合

H17 糸魚川市立南能生小学校(改称)

H23 県小学校教育研究会学習指導改善調査研究
事業公開校実践事例報告会開催

H26 糸魚川市へき地複式教育研究会主催授業研
究会開催

(2) 教育課題

基礎的・基本的内容の習得と活用〔まなび〕
認め合い・励まし合い自己有用感に満ちた
仲間づくり

〔こころ〕

みんなで高め合う体力・健康づくり

〔からだ〕

2 本年度の教育課程

(1) 教育目標

「学び きたえ 励まし合う子」

(2) 重点目標

かかわり合い 高め合う子

(3) 重点目標達成のための方策

「授業改善チェックリスト」の活用

100 マス計算、音読、漢字、Web テストの
取組による既習事項の習得

チャレンジ学習タイムの設定

豊かな人間性をはぐくむ行事・縦割り班活
動づくり

家庭、地域と連携した道徳授業の公開

振り返りカードやQ Uアンケートを生かし
た学級づくり

めあてをもって運動に取り組むことができ
る環境づくり

家庭におけるメディアコントロールのめあ
てづくり

3 学習指導の大綱

(1) 教科指導

一人ひとりの学習状況に応じた適切な支援に
努め、基礎学力の向上を図る。

共に学び、考えを豊かに広げる子どもを育て
る。

(2) 道徳の時間

道徳的価値の自覚が深まるよう、「問題解決的
な学習」「体験的な学習」を基にした学習過程を
工夫し、豊かな心と道徳的实践力を育てる。

(3) 外国語活動

外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケ
ーションを図ろうとする態度を育てる。

(4) 総合的な学習の時間

進んで対象にかかわり、地域の自然や伝統、
くらしや文化からよさを学び、地域を大切にし
ようとする態度を育てる。

(5) 特別活動

児童の発達段階や個性に応じた活動を尊重し
ながら社会性を育てるとともに、自主的・自発
的な態度を育てる。

4 生徒指導の大綱

(1) 指導の重点

共感的人間関係と一人ひとりの自己存在感を基盤にし、自己有用感にあふれる集団づくりや互いに協力して集団生活を送ろうとする態度等の社会性の育成、基本的な生活習慣の定着を図る。

(2) 具体的な実践の方策

教育活動全般において、一人ひとりのよさや可能性を生かす支援を行うとともに、自己実現を図る指導と評価の工夫を推進する。

育てたい社会性の重点化を図り、家庭・地域と連携して発達段階に即した社会性の育成に努める。

特別活動では、互いの意見を尊重して問題を解決する意欲や態度の育成、児童が主体的に関わる行事の実現を図る。

道徳指導と連携を図り、体験的な活動を通して規範意識の醸成や道徳的価値の自覚を深める。

児童理解のための研修会や情報交換会を実施し、全職員の共通理解を深める。

5 校内研究の概要

(1) 研究主題

「主体的に考え、かかわって学ぶ子どもの育成」

(2) 研究の内容

子どもが主体的に学ぶ授業づくりを目指し、下記の2つの過程を大切にしながら実践を行っていく。

子どもが学習課題や活動のめあてを自分事としてとらえ、自分の考えをもつ。

自分の思いや考えを進んで伝え、友達とかわり合いながら学ぶ。

6 重要な教育活動

(1) ジオパーク学習

地域のジオサイトを、各教科や総合的な学習

の時間、行事活動等に効果的に取り入れながら、地域のよさを再発見できるような学習活動を推進する。

(2) キャリア教育

係活動や委員会活動などで、与えられた役割を責任をもって行い、役に立つ喜びを実感する活動を推進する。

(3) 特別支援教育

人とのコミュニケーションを図り楽しく生活できる力や、根気強く学習に取り組もうとする意欲を育てる。

一人ひとりのニーズに沿った支援を行えるよう関係機関と連携し支援に努める。

(4) 陰山メソッド

100マス計算

・毎週火曜日の朝、全校で実施(5分間)

・週3回:学級で実施(朝活、算数授業導入時)音読

・授業に音読を取り入れる。(国語以外では正確に読むことを重視)

・低学年は、音読教材も併せて活用する。

漢字

・学期に1回、全校国語テストを実施する。

・普段の学習でも習った漢字をできるだけ使うように指導する。

7 教職員の構成

校長 1 教頭 1 教諭 3 養護教諭 1

主査 1 管理員 1

8 学校評議員

【委員の構成】5名

前町会議員、教職経験者、町内会長 他

【課題】

地域の様々な機関や団体とのネットワーク化
地域とともに歩もうとする意識の醸成



系魚川市立中能生小学校

所在地 系魚川市大字平 404

校長 秋山 伸宏

教頭 水澤 哲

025(556)2702

fax025(556)2099

Email nakanou@itoigawa.ed.jp

30 年度学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級	1	1	1		1		1	5
男子	4	4	3	3	2	10	2	28
女子	3	6	3	5	1	11	1	30
計	7	10	6	8	4	21	3	58

1 学校の概観

(1) 学校の沿革

- S37 旧中能生小、旧西能生小、旧柱道小の3校が統合し、能生第二小学校として設立
- S38 校名改称、中能生小学校となる
- S63 新校舎竣工、記念式典挙行
- H3 統合30周年記念式典・祝賀会
- H19 体育館改築工事完了
- H29 プール内壁塗替工事完了

(2) 教育課題

- 学力の向上を図ること
- 社会性・豊かな心の育成を図ること
- 健康や安全への意識の向上を図ること

2 本年度の教育課程

(1) 教育目標

「学びあい 助けあい 鍛えあい」

(2) 重点目標

- 自分の考えをもち、分かりやすく表現できる子
- 自信をもち、進んで関わるができる子
- めあてをもち、健康で安全に生活できる子

(3) 重点目標達成のための方策

- 学力の定着・向上と問題解決能力の育成に努める。
- 望ましい人間関係づくりに努める。
- 生涯学習に向けた教育を推進する。
- 一人ひとりの職員の指導力と組織力の向上に努める。
- 保育園・中学校、家庭、地域、諸機関との連携を強化する。

3 学習指導の大綱

(1) 教科指導

一人ひとりが自分の考えをもち、集団による練り上げができるような授業を展開し、思考力の向上と学ぶ喜びを高める。

(2) 道徳の時間

児童が、ねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め、よりよく行きようとする意欲を自ら育む。

(3) 外国語活動

外国語を通して、言語や文化について理解を深め、基本的な表現を使いながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

(4) 総合的な学習の時間

地域の自然や人々の暮らし、伝統、文化等と関わりながら、探究的・協働的な学習を通して、問題設定・追究力、表現力・情報収集能力、情報選択力・活用力、自己発信力を育てる。

(5) 特別活動

異学年の子どもや様々な人との交流の機会を設定し、場に応じて、自ら関わり、主体的に活動していこうとする態度を育てる。

4 生徒指導の大綱

(1) 指導の重点

相手の気持ちを思いやり、温かく関わる子どもを育てる。

(2) 具体的な実践の方策(抜粋)

相互に認め合う学級集団づくりを促進する。
いじめ防止基本方針に基づき、いじめ・不登校、問題行動等の未然防止と早期発見、即時対応

に努める。
育てたい習慣の重点化を図り、教師・家庭・地域との共通理解・実践を通し、定着に努める。
児童一人ひとりや学級のめあてを設定し、振り返りの場面を設定する。
保護者、地域、関係機関等と密接に情報を共有し、実効性ある行動連携を図る。

5 校内研究の概要

(1) 研究主題

「一人ひとりが主体的に取り組み、
考えを深め合うこどもの育成」
～言語活動の充実を通して～

(2) 研究の内容

授業改善

- ・伝え合う力の質を向上させ、自分の考えを深め合う子どもを育成する手立ての工夫
- ・思考力、判断力、表現力を育てるための手立ての工夫
- ・糸魚川市「授業改善チェックリスト」及び「板書例」を基にした授業改善
基礎基本の定着
家庭学習の促進

6 重要な教育活動

(1) ジオパーク学習

主に総合的な学習の時間で、地域素材や地域講師を活用し、児童が郷土への誇りと愛着をもつことができるようにする。

3・4年生...能生川や島道川題材とした活動

5・6年生...地域の自然とそこに関わる人を題材とした活動

(2) キャリア教育

自分の意思で行動し、思考力や表現力を高め、自分の夢や希望をもつ。(夢ナビカルテの活用)

係や委員会活動で人のためになる活動実施

全学年でおおさわの里へ交流訪問実施

家族との対話週間(夏季・冬季休業)

低学年...自分物語、町・地域探検

中学年...活動リーフレット、郷土に伝わる願い

高学年...将来の自分を考え、夢を綴る

(3) 特別支援教育

生活力を身に付け、たくましく生きる子どもを育てる。

支援を必要とする児童の全職員での情報共有

・校内委員会における対応策の情報共有

温かい人間関係の醸成

・児童の特性に応じた指導内容や方法の工夫

・異年齢縦割り班を活用した集団活動

環境のユニバーサルデザイン化

・教室環境や授業構成等の合理的配慮

(4) 篠山メソッド(小学校のみ)

実施の概要(時間、内容)

・毎月第2・3週の8:15～8:30

初めの5分は音読、残りの10分は計算や漢字練習等

・月、金 音読とマス計算

火 音読と漢字

その他 学級裁量として授業中にも実施可

7 教職員の構成

校長 1 教頭 1 教諭 5 養護教諭 1
事務主事 1 教育補助員 1 管理員 1

8 学校評議員

【委員の構成】5名

地区公民館長 保育園長 PTA会長

防犯パトロール員 自然観察指導員

【学校評議員としての課題】

子どもの挨拶について

子どもを軸とした地域と学校の連携について





糸魚川市立木浦小学校

所在地 糸魚川市大字木浦 6073

校長 富永 浩文

教頭 永森 幸代

025(566)2120

fax025(566)5650

Email konoura@itoigawa.ed.jp

30年度学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級	1		1		1		0	3
男子	0	2	0	2	4	4	0	12
女子	1	0	1	1	2	2	0	7
計	1	2	1	3	6	6	0	19

1 学校の概観

(1) 学校の沿革

- 明治35年 村立木浦小学校として開校
- 昭和29年 能生町立木浦小学校と改称
- 52年 現校舎完成
- 平成7年 特別教室棟完成
- 17年 糸魚川市立木浦小学校と改称
- 24年 創立110周年記念事業開催

(2) 教育課題

- 地域の特性を生かし、重点化した教育課程の編成
- 小規模校の強みを生かし、地域と未来を担うための資質や能力の育成
- 多様な交流活動をととした社会性の育成

2 本年度の教育課程

(1) 教育目標

「豊かな人間性とたくましい実践力を身に付けた子どもに育てる」

(2) 重点目標

「学び合い かかわり合い きたえ合い 共に伸びる」

- 考えを広め深める言語活動の充実と「できた、分かった」を実感できる授業づくり
- 道徳性の醸成と良好な人間関係を築くための社会性の育成
- 家庭と連携した生活習慣づくりと健康な体づくり

(3) 重点目標達成のための方策

小規模校の強みを生かし、地域や家庭、中学校

区と連携を図りながら、「切磋琢磨」「多様な交流」「個に応じた指導」の視点から学力向上と社会性の育成を図る。

子ども一貫教育の視点からの教育活動を展開する。

3 学習指導の大綱

(1) 教科指導

自らの力で問題解決ができるように、基礎的・基本的な力を育てる。

(2) 道徳科の指導

思いやりと自他の生命を大切にする心を持ち、自らの判断で行動する力を育てる。

(3) 外国語活動

外国語の言語や文化についての体験的理解を通して、コミュニケーション能力の基礎を育てる。

(4) 総合的な学習の時間

自ら問題を見付け、主体的に追究し表現する力を育てる。

(5) 特別活動

互いに認め合い、自主的に活動しようとする態度を育てる。

4 生徒指導の大綱

(1) 指導の重点

互いの個性や能力を認め合い、好ましい人間関係を育てるとともに、目標をもって意欲的に生活しようとする態度を育てる。

(2) 具体的な実践の方策(抜粋)

児童が主体となる活動を計画的、継続的に進め、社会性の育成や自己指導能力を育てる。職員間での児童理解を深めるとともに、家庭や地域、関係機関との連携を通して、素早い対応に努める。

5 校内研究の概要

(1) 研究主題

学ぶ意欲をもち、自分の考えを伝え、深め合う子どもの育成

(2) 研究の内容

学びを支える基礎学力の定着

学力の実態把握と改善策の検討

教科指導における思考力・判断力・表現力育成のための取組

研究の視点に基づいた授業研究の実施

日常指導における「考えを出し合う」場の設定

多様な考えにふれる場の設定

6 重要な教育活動

(1) ジオパーク学習

緑の少年団活動や環境教育、ESD 教育との関連を図り、地域の自然や人々と関わりながらダイナミックな体験活動を効果的に組み込む。

3～6年生...緑の少年団として他校との交流会を8月に実施。

全学年...教育活動全体を通して ESD 教育を進める。

(2) キャリア教育

学校生活で自分の果たす役割や適性を見付け、まわりの人と協力して責任を果たす態度を育てる。

中学校区で連携しながら「夢ナビカルテ」の活用を図る。

低学年...人とのふれあいの楽しさを味わい、自分のできることを見付け活動する。

中学年...自分のよさを見つめながら、積極的に役割を果たす。

高学年...立場や役割を理解して主体的に活動し、役立つ喜びを体得する。

(3) 特別支援教育

個別支援ファイルを活用し、児童一人ひとりの教育的ニーズを把握し、職員間の情報交換を密にして、指導方法の工夫・改善に努める。校内委員会を中心とする校内体制の充実、及び、関係機関との連携を図る。

(4) 篠山メソッド

実施の概要

「篠山メソッド」で学習の土台となる集中力を育成する。各項目2分以内でできることを目標に取り組ませる。個人のみあても立て、各自の記録を蓄積していく。

実施時間

火曜・金曜は朝活動時、木曜は2時間目の算数の開始時に実施する。(週3回の百マス計算の実施)

7 教職員の構成

校長 1 教頭 1 教諭 3 養護教諭 1
教育補助員 1 管理員 1

8 学校評議員について

【委員の構成】6名

木浦地区連絡協議会長、木浦保育園長
教職経験者、PTA、学校応援隊

【課題】

地域を元気にするあいさつ運動の展開

地域と家庭と学校が、互いに利益のある良好な関係性を築き、維持するため、それぞれの役割分担についての検討や確認



糸魚川市立下早川小学校

所在地 糸魚川市日光寺 322 番
地

校長 伊野 昌子

教頭 齋藤 雅彦

025(555)2107

fax025(555)4516

Email tukimizu@itoigawa.ed.jp

30 年度学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級	1	1	1	1	1	1	2	8
男子	4	2	5	3	8	4	3	29
女子	8	7	4	10	6	9	1	45
計	12	9	9	13	14	13	4	74

1 学校の概観

(1) 学校の沿革

明治 7 年 第六学区第五中学区七区日光寺校として創立(11月)

大正 14 年 校歌制定(中山晋平作曲 相馬御風作詞), 学校林開始

昭和 29 年 糸魚川市立下早川小学校と改称

昭和 39 年 県愛鳥モデル校指定

昭和 54 年 つつじが丘緑の少年団結成

平成 17 年 中早川小学校と統合

平成 28 年 上早川小学校と統合

(2) 教育課題

豊かな自然環境と温かい地域の支援に支えられ、
小規模校ならではのきめ細かな教育を行っている。

互いに認め合いながら自他を尊重し、高め合う関
係を構築する児童の育成に取り組んでいる。

2 本年度の教育課程

(1) 教育目標

「一步前へ」

(2) 重点目標

知：進んで学び 高め合う子

徳：自分を見つめ よりよく生きようとする子

体：体力づくりに 進んで挑戦する子

(3) 重点目標達成のための方策

知：進んで学び 高め合う子

自分の思いや考えをしっかりと伝える力の育成

他者と考えを交流できる場の設定

課題と関連した学びの振り返りの重視

基礎・基本の定着

WEB 配信問題を活用した基礎学力の定着

篠山メソッドの実施

家庭学習強調週間の実施

早川に愛着と誇りをもつ子の育成

地域の「人・もの・こと」との関わりの重視

地域人財の積極的、計画的な活用

徳：自分を見つめ よりよく生きようとする子

自分も友達も大切にし、思いやりのある言動

ができる豊かな心の育成

○道徳授業の重視

特別活動を通じた自己有用感の育成

学校・地域・家庭で、進んで相手に聞こえる声

であいさつをする態度と気持ちの育成

児童会組織を活用したオアシス運動の展開

体：体力づくりに 進んで挑戦する子

めあてをもち、体づくりに励む態度の育成

体育授業や遊びの工夫

用具や環境の計画的な整備

早寝・早起き等の望ましい生活習慣の育成

強調週間の実施による関心・意欲の高揚

生活習慣に関する啓発活動の効果的な実施

自然災害の特徴を知り、自分の身を守るため

の知識と行動力の育成

年間指導計画に基づいた学習の確実な実施

3 学習指導の大綱

(1) 教科指導

基礎的な知識・技能及び各教科の基本的な知

識・技能を習得し、これらを活用して課題を解決

するために必要な思考力、判断力、表現力その他

の能力を身に付けさせる。

(2) 特別の教科 道徳

友達を尊重し、共によりよく生きるための基盤

となる道徳性を養う。

(3) 外国語活動・外国語

外国語による聞くことや話すことの言語活動を通して、主体的にコミュニケーションを取ろうとする意欲と態度を育てる。

(4) 総合的な学習の時間

地域の人・もの・こととのかかわりを通して課題を見つけ、仲間と協力しながら主体的・創造的に課題を解決しようとする態度を育てる。

(5) 特別活動

自主的、実践的な集団活動を通して、他者とコミュニケーションをとり、自己有用感を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。

4 生徒指導の大綱

(1) 指導の重点

互いのよさを認め合い、よりよい人間関係をつくる能力やあいさつなどの基本的な生活習慣、規範意識を一貫して繰り返し指導する。

(2) 具体的な実践の方策(抜粋)

アンケートや相談員との連携などにより、児童理解や問題行動の未然防止に努める。

「よい子のやくそく」、「学びのやくそく」等の内容と意味を繰り返し指導し、保護者や地域と連携してきまりの徹底を図る。

進んで相手に伝わるあいさつができることを目標に「オアシス運動」を推進する。

SST などの実施により、受容的・肯定的な人間関係を育て、自己肯定感を高める。

5 校内研究の概要

(1) 研究主題

「伝え合い、考えを深める道徳の授業実践」

(2) 研究の内容

児童は相手の話を聞いて応答したり、考えを深めたりすることが不足している。そこで、相手の話を受け止めることで、自己の考えを深め、よりよく生きようとする子どもの育成ができると考え、主題を設定した。自己の考えを深めさせる発問や考えを交流させるための方法の研究を進めていく。

6 重要な教育活動

(1) ジオパーク学習

月不見の池を中心に地域素材や講師を活用した学習をし、児童がふるさとへの誇りと愛着をもつことができるようにする。

(2) キャリア教育

ものづくりなどの体験的学習や保育園、介護施設との交流を通して、多様で幅広い他者との人間関係の構築を図る。

(3) 特別支援教育

全職員での情報共有を行うとともに、カウンセラーや関係機関との連携を密にする。また、UD化の視点での指導方法の工夫・改善を行う。

(4) 篠山メソッド

実施の概要(時間、内容)

100 ます計算：月～木の朝学習の時間

漢字：金曜の朝学習の時間(あるいは宿題)

音読・暗唱：国語授業の5分で音読を行い、短文は暗唱できるようにする。

(5) その他

俳句学習

全校で俳句学習に取り組み、豊かな感性を養うとともに、言語感覚を磨く。

緑の少年団

地域清掃などの奉仕活動や緑化活動、オアシス運動などを通して、豊かな心と体を養う。

クロスカントリースキー

困難を乗り越える強い精神力と体力の向上を図るとともに、雪に親しむことを通して、ふるさとへの愛着をもたせる。

7 教職員の構成

校長 1 教頭 1 教諭 8 講師 1

養護教諭 1 事務主事 1 教育補助員 2

管理員 1 調理員 2

8 学校評議員会

【委員の構成】5名

後援会長、地区公民館長 2、PTA、地域住民



糸魚川市立大和川小学校

所在地 糸魚川市田伏 87

校長 田村 雅人

教頭 富永 範子

025(552)3115

fax025(552)5509

Email nadesiko@itoigawa.ed.jp

30 年度学級編成

学年	1	2	3	4	5	6	特	合計
学級	2	1	1	1	1	1	4	11
男子	15	16	18	16	16	19	13	113
女子	18	11	13	13	15	14	5	89
合計	33	27	31	29	31	33	18	202

1 学校の概観

(1) 学校の沿革

M 7 大和川小学校開校

S 16 校舎完工式、記念祝賀会

H 26 創立 140 周年

(2) 教育課題

主体性を育み、集団で向上する児童の育成

思いやりのある言動ができる児童の育成

健康習慣の育成

互いのよさを認め合う気持ちの醸成

2 本年度の教育課程

(1) 教育目標

「よく学び 心やさしく 元気な子」

(2) 重点目標

よりよい集団に向けて、自ら進んでものごとに取り組む子ども

思いやりのある言動ができる子ども

(3) 重点目標達成のための方策

ふわふわ言葉やソーシャルスキル指導を継続し、互いに認め合う人間関係づくりを行う。縦割り班活動や児童会活動を通して、仲間と協力する活動を充実する。

おに遊びを取り入れた準備運動を行い、体力向上を図る。

生活習慣の振り返り調査や講演会等を実施したりして、良好な生活習慣を形成する。

「ねらい」「まとめ」が見える授業を実施するとともに、かわり合う学習を継続する。

週末読書を推進し、読む力の育成を図る。

3 学習指導の大綱

(1) 教科指導

基本的な学習規律・習慣を身に付け、思考力・判断力を高める。

(2) 道徳の時間

相手のことを思いやり、進んで親切にする心情を育む。

(3) 外国語活動

自国や他国の文化を知り、それぞれのよさが分かり、進んでコミュニケーションをとろうとする児童を育成する。

(4) 総合的な学習の時間

教科で培った力を進んで活用し、ふるさとに誇りと愛着をもつ児童を育成する。

(5) 特別活動

よりよい集団に向けて、自ら進んでものごとに取り組む児童を育成する。

4 生徒指導の大綱

(1) 指導の重点

時や場を考えた行動を学び、善悪を判断して行動できるようにする。

学習や生活の目標に向かって、粘り強く取り組むことができるようにする。

(2) 具体的な実践の方策(抜粋)

生活目標の取組により生活習慣の定着を図る。相手の気持ちを考えて行動する態度を育てる。

家庭や地域と連携し、挨拶運動を推進する。

全職員での情報交換や教育相談により、問題行動の早期発見・早期解決を図る。

異学年交流を推進し自己有用感の向上を図る。

5 校内研究の概要

(1) 研究主題

「自己をみつめ、生き方について考えを深める子の育成」～子どもの心にひびく道徳の授業をめざして～

(2) 研究の内容

一貫した指導観(価値観、児童観、教材観)をもち、教師の思いを明確にして授業を構想する。そのために、評価方法について探る。

- ・道徳ポートフォリオの活用
- ・本時の振り返りの積み上げ

6 重要な教育活動

(1) ジオパーク学習

地域に根ざして学び、ジオパーク学習(ふるさと学習)で地域の事象や人と繰り返し関わる体験を通してまろやかな心を耕し、ふるさとへの愛着を高める。

- 3年生...里山探検、大和川や浦本の海探検
- 4年生...そば、大豆栽培
- 5年生...米作り
- 6年生...事業所体験等

(2) キャリア教育

様々な人との関わりや体験活動を通して、自分のあり方や生き方を見つめ、共によりよく生きていこうと努力する子どもを育てる。

低学年...生活科での野菜づくり等を通して、自分の役割がわかり、実践する。

中学年...社会科での町探検や総合的な学習の時間において地域の人々との関わりを通して、働くことの楽しさがわかり、自分の仕事を主体的に行う態度を養う。

高学年...事業所や老人介護施設訪問での奉仕体験等を通して、働くことの大切さや苦労が分かる。また、将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする態度を養う。

(3) 特別支援教育

実態把握を的確に行い、特別な支援を必要とする児童への適切な対応に努める。
どの子どもにもわかる授業を実践する。
個別の指導計画や教育支援計画を作成し、一人ひとりのニーズに応じた支援をする。

(4) 陰山メソッド

実施の概要

時間：朝の学習タイム

算数の授業時間

国語の授業時間

内容：百マスたしざん

百マスひきざん

百マスかけ算

リズムのいい文章の音読

7 教職員の構成

校長 1 教頭 1 教諭 11 講師 2
助教諭 1 養護教諭 1 事務主事 1
教育補助員 4 学校介護員 1 管理員 1
調理員 4

8 学校評議員

【委員の構成】7名

町内会長、教職経験者、PTA
学校応援隊他

【課題】

あいさつ運動の展開

地域で子どもを育てる基盤づくり

